



【戦評シート】

平成 17年 5月 3日(火)	協会名： 能代市 バスケットボール協会	
場 所：能代市総合体育館	記入者：糸井 大輔	
チームA 能代工高 119	32 - 26 33 - 19 15 - 32 21 - 24 延長 18 12	チームB 安城学園高 113

スターター	チームA：	チームB：
ディフェンス (試合開始時)	チームA： ゾーン(オールコートプレス・2-1-2) マンツーマン その他	チームB： ゾーン(オールコートプレス・2-1-2) マンツーマン その他

能代工は期待のルーキー満原をスターターに起用。両チームともオールコートのゾーンプレスから2-1-2のゾーンディフェンスで試合が始まった。序盤、アウトサイドシュートが決まらない安城に対し、能代工高は 満原、西山、齋藤らが3Pを次々に沈め先行する。安城はタイムアウトから立て直しを図るが、能代工は 西山の個人技で得点を重ね、一時は15点のリードを奪う。終了間際に安城 山崎が連続3Pを決め、かろうじて6点差まで点差を詰めて1Qを終える。

2Qに入っても流れは能代工で、得意の速い展開から 西山を中心としたオフェンスでじわじわと点差を広げる。5分を過ぎたところで能代工はもう1人の期待の1年生 長谷川を投入すると、オフェンスリバウンドからバスケットカウントを決め起用に応える。2Q終了時点で能代65-45安城とこの試合最大の点差がつく。

3Qに入り安城がディフェンスをマンツーマンに変えると、能代工は攻めあぐみ思うように得点できない。一方の安城は 八木、宇佐美らが立て続けにオフェンスリバウンドからゴール下シュートをねじこみ、猛烈な追い上げを見せる。能代工は 西山が3Pを決めるものの単発に終わり、勢いに乗った安城は終了間際の 近藤の3Pで3点差まで迫る。

4Qは一進一退の攻防が続くが、安城は勝負所の3Pが決まらずなかなか同点に追いつけない。能代工は 齋藤、西山の外角シュートで引き離しにかかるが、安城も 宇佐美、八木がゴール下で踏ん張り追いつがる。残り3分となったところで安城 宇佐美が3Pを決め、95-95とついに同点となる。そこからは能代工 西山、安城 宇佐美の両エースりよる点の取り合いとなるが、リバウンドで上回る安城が残り10秒を切ったところで1点リード。しかしそこで安城は痛恨のファウル、能代工は2本のフリースローを得る。シューター 西山は1本目を外すものの、2本目をきっちりと沈め試合は延長戦に入る。

延長では能代工は 西山の1対1を中心に攻撃を組み立て、一方の安城は 近藤の3Pで応戦する。追いつ追われつの展開が続くが、残り30秒同点の場面で、この試合不調だった能代工 齋藤がドライブインからファウルを受けながらも意地のバスケットカウント、続くフリースローも決め、115-113と能代が2点のリードを奪う。終了間際には 下山がフリースローを4本全て沈め、激戦の軍配は能代工に挙がった。

注意：文面には試合内容のみご記入下さい。